

第3章 スポーツ健康学研究科教員組織

1. 教員組織

スポーツ健康学専攻		修士課程	博士後期課程
教 授	安 藤 正 志	◎	
	泉 重 樹	◎	◎
	小 田 佳 子	◎	◎
	越 智 英 輔	◎	◎
	荏 部 俊 二	◎	
	木 下 訓 光	◎	
	笹 澤 吉 明	◎	◎
	瀬 戸 宏 明	◎	◎
	高 見 京 太	◎	
	中 澤 史	◎	◎
	永 木 耕 介	◎	◎
	吉 田 政 幸	◎	◎
准 教 授	伊 藤 真 紀	◎	○
	井 上 尊 寛	◎	○
	片 上 千 恵	△	
	島 本 好 平	◎	◎
	林 容 市	◎	◎
専任講師	木 村 新	◎	◎
	ネメシュ ローランド	○	
	望 月 拓 実	◎	
兼任講師	赤 堀 宏 幸	△	
	海 老 島 均	△	
	小 池 隆 俊	△	
	小清水 孝 子	△	
	笹 井 浩 行	△	
	得 田 進 介	△	
	山 口 和 真	△	

- ◎ 研究指導教員
 ○ 研究指導補助教員
 △ 講義担当教員

2. 専任教員紹介（50音順）

教 員 名	安藤 正志 教授
専門領域	運動療法, リハビリテーション, スポーツ傷害, 運動器疾患の評価と治療
研究テーマ	徒手療法, 中高年者の運動療法, リハビリテーション医学
担当科目	運動器疾患予防と対処特論
研 究 室	353号室
オフィスアワー	火曜日10:00～15:00不在の場合はメールで面談時間を確認してください。
主な業績・著書	出版: 標準徒手医学, 運動学実習, 運動器疾患の理学療法, 論文: 運動器疾患におけるトリガーマッピングの紹介. 標準徒手医学会誌1. 11-15, 2018. 徒手的軟部組織刺激が可動域に及ぼす影響. 標準徒手医学会誌1. 20-24, 2014. 徒手的軟部組織刺激が筋弾性に及ぼす影響. 標準徒手医学会誌1. 15-19, 2014. 遠心性収縮ストレッチング法による関節可動域改善の即時的効果. 標準徒手医学会誌1. 6-9, 2014. 軟部組織性可動域制限における短縮性障害と伸張性障害の発生率. 日本スポーツリハビリテーション学会誌. 7, 19-23, 2018. 伸縮性テープが疼痛緩和と可動域に及ぼす影響. 日本スポーツリハビリテーション学会誌. 7, 25-29, 2018. など
学会活動	理学療法科学学会, 日本スポーツリハビリテーション学会, 標準徒手医学会, ドイツ徒手医学会, 日本理学療法士協会, など

教 員 名	泉 重樹 教授
専門領域	アスレティックトレーニング, スポーツ医学, 鍼灸学
研究テーマ	体幹の機能とエクササイズ評価, スポーツ外傷・障害予防, スポーツ鍼灸
担当科目	研究デザイン・フィロソフィー, アスレティックトレーニング特別演習, スポーツ健康学高度開発特論A（ヘルス領域）
研 究 室	461号室
オフィスアワー	水曜日 13:30～17:00
主な業績・著書	Shigeki IZUMI, Koji KANEOKA, Toshikazu MIYAMOTO, Yu OKUBO, Shumpei MIYAKAWA: Electromyographic and Kinematic Trunk Analysis of Boxing during a Dominate Straight Punch. Bulletin of Sports and Health Studies Hosei University. 9, 65-72, 2018 Shigeki Izumi, Yasuhisa Kaneko, Hinata Sakuraba, Hiroshi Kondo: Does the muscle output of an antagonist improve by inserting needles in an agonist?. International Conference of World Federation of Acupuncture-Moxibustion Societies Tokyo/Tsukuba 2016, Tsukuba. 2016/11/5-6 Shigeki Izumi, Kotoko Shirakawa, Naoki Taguchi, Yuki Kasugai: Muscle activity of lower extremities and the trunk while doing squats with ViPR. European College of Sports Science, Vienna. 2016/7/7-9
学会活動	European College of Sports Science, 日本臨床スポーツ医学会, 日本アスレティックトレーニング学会, 日本体力医学会, 全日本鍼灸学会

教 員 名	伊藤 真紀 准教授
専門領域	スポーツマネジメント
研究テーマ	スポーツにおけるリーダーシップ, 女性スポーツ, アスリートのキャリア構築
担当科目	今年度は授業を担当しません。
研 究 室	454号室
オフィスアワー	今年度はオフィスアワーを設けません。
主な業績・著書	1. Itoh, M., Hums, M.A., & Bower, G.G. (2021). Women's baseball in Japan – Past, present, and future. NINE: A Journal of Baseball History and Culture. 2. 伊藤真紀・三倉茜(2021) パラアスリートの職業キャリア形成に影響を与える要因: 心理的資本を援用して. アダプテッド体育・スポーツ学研究 3. Itoh, M., Akiko, N., Ogaswara, E., & Hums, M.A. (2018). Realizing Identity and Overcoming Barriers: Factors Influencing Female Japanese Paralympians to Become Coaches. International Journal of Sport and Health 4. Itoh, M., Bower, G.G., & Hums, M. A. (2017). Career experiences of women working in Paralympic sport organizations internationally. Advancing Women in Leadership, 37, 20-28. 5. Itoh, M., & Hums, M.A. (2016). Why do women work in the management of professional baseball? In B. Pitts & J. Zhang (eds.). Global sport management (pp. 135-150). London: Taylor & Francis.
学会活動	北米スポーツマネジメント学会, 日本スポーツマネジメント学会

教 員 名	井上 尊寛 准教授
専門領域	スポーツマネジメント, スポーツマーケティング, スポーツ消費者行動
研究テーマ	スポーツ観戦者の観戦行動, プロ・スポーツクラブのマーケティング戦略
担当科目	研究デザイン・フィロソフィー, スポーツマーケティングリサーチ演習, スポーツ健康学高度開発特論B (マネジメント領域)
研 究 室	351号室
オフィスアワー	月曜日 11:30 ~ 12:40
主な業績・著書	Jリーグ観戦者調査 ・よくわかるスポーツマーケティング(ミネルヴァ書房) ・スポーツ白書2017(笹川スポーツ財団) ・The relationship between perceived social media marketing activities of J. League clubs and behavior intention of spectators. Asian Sports Management Review volume 11, Asian Association for Sport Management. ・フィギュアスケート観戦のプロダクト構造 : 競技的要素に着目して, スポーツマネジメント研究, 第8巻, 1号.
学会活動	日本スポーツマネジメント学会, 北米スポーツマネジメント学会 (NASSM)

教 員 名	小田 佳子 教授
専門領域	体育・スポーツ哲学
研究テーマ	武道の国際化と文化変容, スポーツ教育, 武道論 (剣道), 遺伝子ドーピング
担当科目	研究デザイン・フィロソフィー
研 究 室	453号室
オフィスアワー	金曜日 10:30~12:00
主な業績・著書	『日韓「剣道」KENDOとKUMDOの相克と未来』（単著, 青弓社, 2017） 『データでみるスポーツとジェンダー』（共著, 日本スポーツとジェンダー学会編, 2016） 『これならできる剣道』（共著, 全国教育系大学剣道連盟編, 2014） 日本剣道KENDOと韓国剣道KUMDOにおける指導者の「剣道の価値」に関する調査研究（単著, 体育・スポーツ哲学研究43-1:23-35, 2021） 日本の体育・スポーツにおける武（士）道的性格（単著, 体育史研究38 シンポジウム報告, 2020） 剣道は日本固有の文化なのか?（単著, 学校体育研究同志会, たのしい体育・スポーツ2020年秋号:48-53, 2020） 学校現場において教師が有する「体罰」に関する現実的課題（単著, 体育科教育研究30-1: 69-74, 2014） Yoshiko Oda & Yoshitaka Kondo, The Concept of <i>Yuko-Datotsu</i> in Kendo : Interpreted from the Aesthetics of <i>Zanshin</i>, (Sport, Ethics & Philosophy 8-1:3-15, 2014)
学会活動	日本体育・スポーツ哲学会, 日本武道学会, 日本スポーツ教育学会, 日本スポーツとジェンダー学会, 日本体育・スポーツ・健康学会, The International Association for the Philosophy of Sport (IAPS) 国際スポーツ哲学会

教 員 名	越智 英輔 教授
専門領域	運動生理学, 応用健康科学
研究テーマ	運動や栄養介入による骨格筋・血管の応答・適応変化に関する研究
担当科目	研究デザイン・フィロソフィー, 健康体力学特論, スポーツ健康学高度開発特論A（ヘルス領域）
研 究 室	652号室
オフィスアワー	火曜日13:00～15:00（右のアドレスに事前にメールをください: ochi@hosei.ac.jp）
主な業績・著書	1: Ochi E, Tsuji K, Narisawa T, Shimizu Y, Kuchiba A, Suto A, Jimbo K, Takayama S, Ueno T, Sakurai N, Matsuoka Y. Cardiorespiratory fitness in breast cancer survivors: a randomised controlled trial of home-based smartphone supported high intensity interval training. BMJ Support Palliat Care. 2022 Mar;12(1):33-37. 2: Ochi E, Ueda H, Tsuchiya Y, Nakazato K. Eccentric exercise causes delayed sensory nerve conduction velocity but no repeated bout effect in the flexor pollicis brevis muscles. Eur J Appl Physiol. 2021 Nov;121(11):3069-3081. 3: Tidball JG, Flores I, Welc SS, Wehling-Henricks M, Ochi E. Aging of the immune system and impaired muscle regeneration: A failure of immunomodulation of adult myogenesis. Exp Gerontol. 2021 Mar;145:111200. 4: Morishima T, Padilla J, Tsuchiya Y, Ochi E. Maintenance of endothelial function following acute resistance exercise in females is associated with a tempered blood pressure response. J Appl Physiol (1985). 2020 Oct 1;129(4):792-799. 5: Tsuchiya Y, Ueda H, Yanagimoto K, Kato A, Ochi E. 4-week eicosapentaenoic acid-rich fish oil supplementation partially protects muscular damage following eccentric contractions. J Int Soc Sports Nutr. 2021 Mar 1;18(1):18.
学会活動	日本体力医学会, 日本運動・スポーツ科学学会 American College of Sports Medicine, European College of Sport Science, American Physiological Society

教 員 名	片上 千恵 准教授
専門領域	スポーツマネジメント, スポーツメディア
研究テーマ	スポーツメディア, アスリートのメディアトレーニング, スポーツ広報
担当科目	研究デザイン・フィロソフィー, スポーツ健康学特論Ⅲ（人文社会科学）, スポーツ産業学特論, スポーツジャーナリズム特論
研 究 室	456号室
オフィスアワー	水曜日 15:30～17:10 それ以外の時間でも在室時は対応します。
主な業績・著書	・スポーツマネジメント理論と実務：第12講メディア・トレーニング（東洋経済新報社, 2009） ・実践から読み解くスポーツマネジメント：第7章メディア・トレーニング（晃学出版, 2011） ・よくわかるスポーツマーケティング（ミネルヴァ書房, 2017） ・スポーツ白書2017（笹川スポーツ財団, 2017） ・片上 千恵, 仲澤 眞, 吉田 政幸：スポーツ・アスリートを対象としたメディア・トレーニングの必要性, Vol. 22, No. 1, pp. 29-46（2012）
学会活動	日本スポーツマネジメント学会, 日本スポーツ産業学会, 日本広報学会

教 員 名	苅部 俊二 教授
専門領域	スポーツコーチング学, スポーツ心理学
研究テーマ	身体運動とイメージ
担当科目	研究デザイン・フィロソフィー, スポーツ健康学特論 I (身心科学), スポーツコーチング学特論
研 究 室	452号室
オフィスアワー	月曜日 12:40~13:30 水曜日 12:40~13:30 (体育館/苅部研究室)
主な業績・著書	陸上スプリント上達のポイント50 コツがわかる本 (2009) メイツ出版. こどもチャレンジ第2シリーズ はじめよう!陸上競技 (2014) ベースボール・マガジン社. 多様な思考法に基づくコーチング (2019) 培風館, pp63-72.
学会活動	日本体育・スポーツ・健康学会、日本スプリント学会、日本陸上競技学会、日本スポーツ心理学会、日本コーチング学会

教 員 名	木下 訓光 教授
専門領域	スポーツ医学, 循環器病学
研究テーマ	スポーツ心臓, アスリートの突然死, 運動処方, 生活習慣病の運動療法, 持久系スポーツの医科学, 女性選手の三徴, アスリートのエネルギー代謝・energy availability
担当科目	今年度は授業を担当しません。
研 究 室	459号室
オフィスアワー	水曜日 13:40~15:20
主な業績・著書	Kinoshita N, Tokita M, Okuyama K. Trajectory analysis of the four-year change in body composition and bone mineral characteristics among highly competitive male university long-distance runners. (Am J Hum Biol. 2025;37(1):e24179) Uchiyama E, Kinoshita N, Okuyama K. Tracking body composition change with weight loss by BIA and DXA in female adolescent runners: a validation study. (Exerc Sport Mov. 2023;1(2):e000003) Kinoshita N, Uchiyama E, Ishikawa-Takata K, et al. Association of energy availability with resting metabolic rates in competitive female teenage runners: a cross-sectional study. (J Int Soc Sports Nutr. 2021;18(1):70) Kinoshita N, Fukuda R. Secular trend in thinness prevalence for 26 years (1989-2014) among high school runners in Japan. (Asian J Sports Med. 2016;7(4):e35970) Kinoshita N, Katsukawa F, Yamazaki H. Modeling of longitudinal changes in left ventricular dimensions among female adolescent runners. (PLoS One. 2015;10(10):e0140573) Pelliccia A, Kinoshita N, Pisicchio C, et al. Long-term clinical consequences of intense, uninterrupted endurance training in Olympic athletes. (J Am Coll Cardiol. 2010;55:1619)
学会活動	日本内科学会, 日本臨床スポーツ医学会 (代議員), 日本循環器学会, 日本医師会, 日本体力医学会 (評議員), 日本糖尿病学会 American College of Sports Medicine, European Association of Preventive Cardiology, European College of Sport Science

教 員 名	木村 新 専任講師
専門領域	スポーツバイオメカニクス, トレーニング科学
研究テーマ	運動技能の理解と獲得を目指した理論的・実践的研究
担当科目	研究デザイン・フィロソフィー, スポーツ運動学特論, スポーツバイオメカニクス特論, スポーツ健康学高度開発特論C (コーチング領域)
研 究 室	458号室
オフィスアワー	水曜日 13:00~15:00 それ以外の時間でも在室時には対応する
主な業績・著書	1. Kimura, A., Nakashima, H., & Inaba, Y. (2023). Biomechanical role can vary depending on the conditions of the motor task. <i>Human Movement Science</i>, 92, 103150. 2. Kimura, A., Yoshioka, S., & Fukashiro, S. (2023). Joint coordination with a change in task constraint during accurate overhead throwing. <i>Journal of Applied Biomechanics</i>, 39(3), 169-178. 3. Kimura, A., Nakashima, H., Kuroyanagi, S., Ando, Y., Liao, P., & Sakurai, S. (2023). Estimating flight trajectories of breaking balls from four-seam fastballs. <i>Frontiers in Sports and Active Living</i>, 5, 1092520. 4. Kimura, A., Yokozawa, T., & Ozaki, H. (2021). Clarifying the biomechanical concept of coordination through comparison with coordination in motor control. <i>Frontiers in Sports and Active Living</i>, 3, 753062. 5. Kimura, A., Omura, L., Yoshioka, S., & Fukashiro, S. (2021). Identifying coordination between joint movements during a throwing task with multiple degrees of freedom. <i>Human Movement Science</i>, 77, 102799.
学会活動	日本バイオメカニクス学会, 日本体育・スポーツ・健康学会, European College of Sport Science

教 員 名	笹澤 吉明 教授
専門領域	公衆衛生, 学校保健
研究テーマ	疫学調査, 睡眠教育, 運動と睡眠, 学力と睡眠, 環境騒音と睡眠
担当科目	公衆衛生学特論, 学校保健学特論
研 究 室	463号室
オフィスアワー	火曜日 12:50～ 金曜日 12:50～
主な業績・著書	著書：①岡靖哲、笹澤吉明ら．(2023) jmed 85 「いま知っておきたい現代の睡眠障害、どう疑い、どう対処し、いつ紹介する？」分担執筆：第3章医療者が知っておくべき睡眠のトピックス, 3. 児童の睡眠, 117-124, 日本医事新報社. ②日本睡眠環境学会睡眠教育委員会;日本睡眠環境学会;笹澤吉明ら．(2023)「睡眠環境学入門」全268頁, 笹澤吉明 分担執筆：第3章睡眠環境の基礎：3騒音環境と睡眠、心身への影響－快適睡眠のための騒音対策－(pp106-111)全日本病院出版会. ③鈴木庄亮, 高坂宏一, 出嶋靖志, 笹澤吉明. (2021)「衛生学・公衆衛生学 第2版17刷」全291頁, 医歯薬出版(笹澤吉明 分担執筆：第3章ライフスタイルと健康 pp41-74, 第6章精神保健pp145-160, 第7章母子保健pp161-170, 第8章学校保健pp171-186, 第9章成人・高齢者保健pp187-204, 第12章疫学pp247-256), 2021年1月. 論文：①笹澤吉明. (2023)「騒音環境が及ぼす睡眠、心身への影響－快眠のための騒音への対策－」睡眠と環境(日本睡眠環境学会雑誌), 17(1), 15-24. ②笹澤吉明、岡靖哲、姜東植、小林稔. (2022). コロナ禍での小学生へのICTによる睡眠改善アプリ活用の試み、不眠研究2022、18-27. ③笹澤吉明, 姜東植, 小林稔. (2020)「沖縄の児童における睡眠教育の実践とその効果」睡眠と環境(日本睡眠環境学会雑誌), 15 (1), 54-59. ④Sasazawa, Y., Kawada, T., Kiryu, Y., & Suzuki, S. (2004). The relationship between traffic noise and insomnia among adult Japanese women. Journal of Sound and Vibration, 277(3), 547-557.
学会活動	日本睡眠学会, 日本睡眠環境学会

教 員 名	島本 好平 准教授
専門領域	ライフスキルコーチング, 体育・スポーツ心理学
研究テーマ	アスリート等に対するライフスキルコーチングに関する研究
担当科目	研究デザイン・フィロソフィー, スポーツ健康学特論Ⅰ(心身科学), 健康心理学特論
研 究 室	464号室
オフィスアワー	木曜日 13:40～15:20
主な業績・著書	島本好平・石井源信(2006)大学生における日常生活スキル尺度の開発. 教育心理学研究, 54(2):211-221. 島本好平・石井源信(2010)運動部活動におけるスポーツ経験とライフスキル獲得との因果関係の推定. スポーツ心理学研究, 38(2):89-99. 島本好平ほか(2013)アスリートに求められるライフスキルの評価. スポーツ心理学研究, 40(1):13-30. 島本好平・米川直樹(2014)高校生ゴルフ競技者におけるライフスキルと競技成績との関連. 体育学研究, 59(2):817-827. 島本好平・山本浩二(2018)心理社会的な成長につながる気づきのライフスキル獲得への影響. 大学体育学, 15:63-71.
学会活動	日本体育・スポーツ・健康学会, 日本コーチング学会, 日本スポーツ心理学会, 日本体育科教育学会, 日本武道学会

教 員 名	瀬戸 宏明 教授
専門領域	スポーツ医学, 整形外科
研究テーマ	運動器傷害に対する予防と再生について
担当科目	研究デザイン・フィロソフィー, スポーツ健康学特論Ⅱ (自然科学), スポーツ健康学高度開発特論A (ヘルス領域)
研 究 室	460号室
オフィスアワー	水曜日 15:20~16:50
主な業績・著書	Seto H, et al. Distinct roles of Smad pathways and p38 pathways in cartilage-specific gene expression in synovial fibroblasts The Journal of Clinical Investigation. 2004. Sep; 13(5): 718-726. Nagao M, Seto H, et al. Headless compression screw fixation of jones fractures: an outcomes study in Japanese athletes. Am J Sports Med 2012 40(11):2578-2582. Hada S, Seto H, et al. Accelerated return to play for professional rugby players after facial fractures. Journal of Craniofacial Surgery. 2019 30(4), 1121-1124. 瀬戸宏明; 泉重樹; 平野祐貴. 大学サッカー部に対するJones骨折検診の経験. 法政大学スポーツ健康学研究, 2019, 10: 9-14. 女子バスケットボール選手のリバウンド動作時における下肢キネマティクス 瀬戸宏明, 篠塚ななみ, 泉重樹, 平野裕一 日本臨床スポーツ医学会誌. 2021 ; 29 (2) : 260-267.
学会活動	日本整形外科学会, 臨床スポーツ医学会, 日本整形外科スポーツ医学会, International Society of Arthroscopy, Knee Surgery and Orthopaedic Sports Medicine, Japanese Orthopaedic Society of Knee, Arthroscopy and Sports Medicine

教 員 名	高見 京太 教授
専門領域	運動生理学, 発育発達学
研究テーマ	子供の健康・体力づくり, 人馬のウィルビーイング
担当科目	研究デザイン・フィロソフィー, 体力・機能測定評価演習, 発育発達学特論
研 究 室	352号室
オフィスアワー	月曜日 15:30~17:00
主な業績・著書	幼稚園における運動遊びが幼児体力テストの結果に及ぼす影響. 法政大学スポーツ健康学研究1, pp. 45-49, 2010. 幼稚園における任意の運動あそびプログラムへの参加状況と幼児体力テストの結果との関係. 法政大学スポーツ健康学研究2, pp. 1-6, 2011. 健康・スポーツ科学テキスト トレーニング科学, Ⅱ. 体力とトレーニング, 4. その他の機能と形態, A. 柔軟性. p. 121-133, 文光堂, 2011
学会活動	日本体育・スポーツ・健康学会, 日本発育発達学会, 日本ウマ科学会

教 員 名	永木 耕介 教授
専門領域	スポーツ教育学
研究テーマ	教材文化論，武道教育論
担当科目	スポーツ教育学特論，スポーツ健康学高度開発特論C（コーチング領域）
研 究 室	451号室
オフィスアワー	月曜日 11：10～12：50
主な業績・著書	『嘉納柔道思想の継承と変容』（単著，風間書房，2008） 『現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのかーオリンピック・体育・柔道の新たなビジョンー』（共著，ミネルヴァ書房，2014） 『よくわかるスポーツ倫理学』（共著，ミネルヴァ書房，2017） 「柔道授業における心理社会的学習成果評価尺度の開発」（共著，体育学研究 Vol. 62, No. 1, pp. 323-337, 2017） “The Legacy of Kano Jigoro: Judo and Education”（共著，JAPAN LIBRARY，2020） 『格闘スポーツと柔道ー嘉納治五郎の目的論からー』（単著，体育の科学，Vol. 73 No. 6 pp. 380-384, 2023） 「オリンピックの柔道採用をめぐる嘉納治五郎の思想」（共著，武道学研究 DOI https://doi.org/10.11214/budo.2408 , 2024）
学会活動	体育学会，武道学会，スポーツ教育学会，体育科教育学会ほか

教 員 名	中澤 史 教授
専門領域	スポーツ心理学
研究テーマ	アスリートのメンタルサポート，チームビルディング， 体育授業・運動部活動の心理学
担当科目	研究デザイン・フィロソフィー，スポーツメンタルトレーニング演習， スポーツ健康学高度開発特論C（コーチング領域）
研 究 室	652号室
オフィスアワー	水曜日 12：50～13：40
主な業績・著書	「スポーツ心理学の挑戦ーその広がりと深まり」（分担執筆，大修館書店，2023） 「アスリートの心理学」（単著，日本文化出版，2016） 「スポーツメンタルトレーニング教本・三訂版」（分担執筆，大修館書店，2016） 「アスリートの心の強化法：指導者・選手のためのメンタルトレーニングの理論と方法」（DVD 監修，ティアンドエイチ株，2016） 「新版 TEG II 活用事例集」（分担執筆，金子書房，2009） 「ジュニアスポーツの心理学」（共訳，大修館書店，2008）他
学会活動	日本体育・スポーツ・健康学会，日本スポーツ心理学会，日本交流分析学会， 日本心理学会，日本質的心理学会，日本教育心理学会，Asian-South Pacific Association of Sport Psychology 他

教 員 名	ネメシュ・ローランド 専任講師
専門領域	コーチング学・指導方法・体育方法学・ハンドボール
研究テーマ	コーチング学, トップレベル選手の育成・GCA (Game Centred Approach) メソッド
担当科目	今年度は研究専念のため講義科目を担当しません。
研 究 室	457号室
オフィスアワー	今年度は研究専念のためオフィスアワーは設けません。
主な業績・著書	ネメシュ・ローランド, 會田宏: ハンガリーにおけるハンドボールの一貫指導システム: 7歳から12歳までの指導プログラムに着目して. ハンドボールリサーチ, 1: 31-39, 2012 Roland Nemes: Scoring efficiency development of two Japanese U21 national players, regarding 1:1 with the goalkeeper. European Handball Federation Master Coach thesis, 2014 長野翔大, ネメシュ・ローランド, 藤本元, 會田宏: ハンドボール競技における強豪国と日本の一貫指導プログラムに関する比較研究. コーチング学研究 第30巻第2号, 109-123, 2017 Miller A, Harvey S, Morley D, Nemes R, Janes M, Eather N: Exposing athletes to playing form activity: outcomes of a randomized control trial among community netball teams using a game-centred approach. Journal of Sport Sciences, 35: 1846-1857, 2017-18
学会活動	日本体育・スポーツ・健康学会, 日本コーチング学会, 日本ハンドボール学会

教 員 名	林 容市 准教授
専門領域	体力学, 生理心理学
研究テーマ	身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御、生理的状态と心理的情報の対応、種々の身体パフォーマンスに関する体力の測定・評価
担当科目	スポーツ健康学高度開発特論C (コーチング領域)
研 究 室	652号室
オフィスアワー	木曜日 13:00~13:30 (1階講師室にて受け付ける)
主な業績・著書	業績: 林 容市 他, 就学段階ごとの運動経験が大学生における把握の調整力に及ぼす影響, 体育測定評価研究: 18, 35-46, 2019; 運動経験によるグレーディングの変化, 体育の科学 67 (12): 820-825, 2017 等 著書: 「エクササイズ科学-健康体力づくりと疾病・介護予防のための基礎と実践- (田中喜代次他)」, 2011; 「健康づくりのための体力測定評価法 (田中喜代次他)」, 2007
学会活動	日本体育・スポーツ・健康学会, 日本体力医学会 (評議員), 日本体育測定評価学会 (理事), American College of Sports Medicine, European College of sport Science, 等

教 員 名	望月 拓実 専任講師
専門領域	スポーツマネジメント、スポーツ経営学
研究テーマ	eスポーツのマネジメント、ダンスのマネジメント、学生のスポーツライフ
担当科目	スポーツ健康学特論Ⅲ（人文社会学）
研 究 室	462号室
オフィスアワー	水曜日 11:10～12:50
主な業績・著書	望月拓実（2022）eスポーツにおけるビジネスモデル構造把握に関する基礎的研究—他スポーツへの適用可能性の検討—国際研究論叢 35 巻 3 号 pp. 251-264 望月拓実（2021）我が国に求められる e スポーツ研究：文献レビューによる検討，国際研究論叢 34 巻 2 号 pp. 75-96 望月拓実ほか（2021）大学生のスポーツライフの実態からみる生涯スポーツ普及に向けた課題の検討，体育・スポーツ経営学研究第 34 巻 1 号 pp. 45-63 望月拓実，作野誠一（2019）“現代的なリズムのダンス”授業における教授方略に関する研究—指導案と学習指導要領の再検討から—，スポーツ科学研究 Vol. 16 pp. 34-48 望月拓実（2017）民間スポーツクラブにおけるダンスプログラムの特性に関する研究—キッズダンスプログラムに着目して—，日本体育学会体育経営管理専門領域体育経営管理論集第 9 巻 pp. 15-31
学会活動	日本体育・スポーツ・健康学会、日本体育・スポーツ経営学会

教 員 名	吉田 政幸 教授
専門領域	スポーツマネジメント，スポーツマーケティング
研究テーマ	スポーツ消費者行動，ファン・エンゲージメント，ファン・エクスペリエンス，ファン・ウェルビーイング
担当科目	研究デザイン・フィロソフィー，スポーツ健康学特論Ⅲ（人文社会科学），スポーツマネジメント特論，スポーツ消費者行動特論，スポーツ健康学高度開発特論B（マネジメント領域）
研 究 室	455号室
オフィスアワー	火曜日 13:00～14:00（在室時はこれ以外の時間でも対応します）
主な業績・著書	- Gordon, B.S., Yoshida, M., Inoue, Y. & Biscaia, R. (2025). Sport fans and flourishing: Examining the mediating role of sport fan well-being in predicting flourishing. Journal of Sport Management. Advance online publication. https://doi.org/10.1123/jsm.2024-0189 - Yoshida, M., Biscaia, B., Uhrich, S., Gordon B.S., Huettermann, M., & Nakazawa, M. (2024). Fan engagement behavior: Validation of a theory-based scale. Journal of Sport Management, 38(2), 133-150. - Yoshida, M., Sato, M., Pizzo, A., & Kuramasu, R. (2023). The evolution of psychological involvement and customer loyalty: A longitudinal analysis of fitness facility members. Sport Management Review, 26(5), 744-765. - Yoshida, M., Sato, M., & Doyle, J. (2023). Feeling vital by watching sport: The roles of team identification and stadium attendance in enhancing subjective vitality. Journal of Sport Management, 37(4), 229-242. - 吉田政幸（2022）スポーツ観戦と持続的ウェルビーイング. 体育の科学 72 : 247-253.
学会活動	北米スポーツマネジメント学会，日本スポーツマネジメント学会，日本スポーツ産業学会